



みんなの「なんなーの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎子ども記者ニュース



こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.70

JAXA沢田さんがやって来た!

～長野市三本柳小学校　こども記者が取材～



沢田さんに取材する
こども記者たち



風船ロケットでかんげい

滝沢颯太　記者

なぜ宇宙関係の仕事を

沢田さんはすごくイケメンで、宇宙のことをいろいろ知っていました。「ロケットをつくるときにかかる費用はどれくらいですか?」と聞くと、沢田さんは「それは、ルールがあつて言えません」。なぜ宇宙関係の仕事を聞いたのかを聞くと、「昔から星が好きだったのでJAXAに入った」と答えてくれました。

山口知文　記者

宇宙工レベーターの話

沢田さんにいろいろ学んだことがあります。その一つは宇宙工レベーターの話です。本で読んで「実現するかな、実現するとしたら何年後くらいかな」と思っていたので聞いてみると「計算上はできているので、みんなが大人になるころにはできると思うよ」と答えてくれました。うれしかったです。

江口菜々子　記者

月と地球の距離は…?

沢田さんの話を聞いて印象的だったことの一つが、地球と月の距離です。想像したことなんてなかっただけれど、何千キロ程度だと思っていました。実際はなんと、38万キロもあるそうです。もともと宇宙に興味がなかった私ですが、沢田さんの話を聞いてもっと宇宙のことを知りたいと思えるようになりました。

昨年12月に宇宙に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」。その開発にたずさわり、信毎子ども新聞で「ふしぎいっぱい! 宇宙探査」を連載している宇宙航空研究開発機構(JAXA)職員の沢田弘崇さん(38)=長野市出身=が2月26日、同市三本柳小学校を訪ね、講演しました。5年3組のこども記者たちが、沢田さんから聞いたり質問したりして学んだことを伝えます。

竹花実彩　記者

生命のなぞ解けるかな

そもそもはやぶさ2が小惑星に行く目的は生命のなぞを解くことです。生物が生きていくために必要な水やアミノ酸があるかどうかを調べたいそうです。はやぶさ2が地球に帰ってくるのは、東京オリンピックがある2020年の12月ころ。どんな石を持って帰ってくれるか、とても楽しみです。

堤己人　記者

分からぬこと質問も

今回、分からぬことを自分と友達で質問しました。ぼくが質問したことは「ロケット発射に使う燃料はどのくらいですか?」ということ。沢田さんによると「何百トンもの燃料を使う」そうです。JAXAに入ったとき、どんな気持ちだったかを聞くと、「とにかく夢がかなってうれしい」気持ちだったそうです。



講演する沢田弘崇さんは2月26日、長野市三本柳小学校



はく手で見送り

うら面につづく

